

住民意向調査速報版（葛尾村・浪江町・大熊町）の公表について

原発事故による避難者等に対する住民意向調査について、葛尾村、浪江町、大熊町の住民を対象とした調査結果を取りまとめました。

1. 調査概要

葛尾村

調査主体	復興庁、福島県、葛尾村
調査対象	世帯の代表者（510 世帯）
実施期間	令和元年 10 月 15 日～10 月 29 日
回答者数	292 世帯（回収率 57.3%）

浪江町

調査主体	復興庁、福島県、浪江町
調査対象	世帯の代表者（7,471 世帯）
実施期間	令和元年 10 月 15 日～10 月 29 日
回答者数	3,491 世帯（回収率 46.7%）

大熊町

調査主体	復興庁、福島県、大熊町
調査対象	世帯の代表者（5,199 世帯）
実施期間	令和元年 10 月 28 日～11 月 11 日
回答者数	2,160 世帯（回収率 41.5%）

2. 調査結果のポイント

別紙 1 ～ 3 のとおり

本件連絡先 （原子力災害復興班）担当：阿部、高橋 電話：03-6328-0250（直通）
--

葛尾村調査結果のポイント

- ・将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・復興庁、福島県、葛尾村の共同調査は6回目。
- ・帰還の意向については、平成30年度の調査と比べて、
 - ・「既に葛尾村に戻っている」及び「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」の合算が47.9%に増加（+1.8%）。
 - ・「まだ判断がつかない」が減少（▲5.2%）。
 - ・「戻らないと決めている」が増加（+5.0%）。

（１）帰還の意向

既に葛尾村に戻っている	28.4%（24.9%）
戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）	19.5%（21.2%）
まだ判断がつかない	18.2%（23.4%）
戻らないと決めている	31.8%（26.8%）

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(H30.10)結果

（２）帰還を判断するために必要なこと（上位抜粋）

医療機関（診療科）の拡充	47.2%
有害鳥獣対策の強化	32.1%
介護・福祉施設の充実	28.3%
どの程度の住民が戻るかの状況	20.8%
働く場の確保の見通し	20.8%

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

（３）戻らないと決めている理由（上位抜粋）

医療環境に不安があるから	50.5%
すでに生活基盤ができているから	46.2%
避難先の方が、生活利便性が高いから	40.9%
高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから	34.4%
葛尾村外への移動交通が不便だから	29.0%

※帰還の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答

浪江町調査結果のポイント

- ・将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・復興庁、福島県、浪江町の共同調査は8回目。
- ・帰還の意向については、平成30年度の調査と比べて、
 - ・「すでに浪江町に戻っている」及び「戻りたいと考えている」の合算が17.9%に増加（+1.2%）。
 - ・「まだ判断がつかない」が減少（▲4.1%）。
 - ・「戻らないと決めている」が増加（+5.0%）。

（１）帰還の意向

すでに浪江町に戻っている	6.5%（4.9%）
戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）	11.4%（11.8%）
まだ判断がつかない	26.1%（30.2%）
戻らないと決めている	54.9%（49.9%）

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(H30.10)結果

（２）帰還を判断するために必要なこと（上位抜粋）

医療・介護の復旧時期の目途	55.8%
どの程度の住民が戻るかの状況	38.7%
商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途	36.2%
原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）	31.0%
放射線量の低下の目途、除染成果の状況	28.4%

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

（３）戻らないと決めている理由（上位抜粋）

すでに生活基盤ができているから	48.7%
医療環境に不安があるから	44.1%
避難先の方が、生活利便性が高いから	41.5%
原子力発電所の安全性に不安があるから	31.7%
生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	30.6%

※帰還の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答

大熊町調査結果のポイント

- ・将来の帰町意向やその判断の前提となる情報、帰町した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・復興庁、福島県、大熊町の共同調査は7回目。
- ・帰町の意向については、平成29年度の調査と比べて、
 - ・「すでに大熊町で生活している」及び「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」の合算が12.4%に微減（▲0.1%）。
 - ・「まだ判断がつかない」が微減（▲0.4%）。
 - ・「戻らないと決めている」が微増（+0.7%）。

（１）帰町の意向

すでに大熊町で生活している	1.8%
戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）	10.6%（12.5%）
まだ判断がつかない	26.5%（26.9%）
戻らないと決めている	60.0%（59.3%）

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(H30.1)結果

（２）帰町を判断するために必要なこと（上位抜粋）

道路、鉄道、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途	63.2%
放射線量の低下の目途、除染成果の状況	46.0%
住宅確保への支援に関する情報	42.4%
どの程度の住民が戻るかの状況	41.5%
帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報	38.8%

※帰町の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

（３）戻らないと決めている理由（上位抜粋）

すでに生活基盤ができているから	41.5%
避難先の方が、生活利便性が高いから	20.0%
家が汚損・劣化し、住める状況ではないから	18.5%
原子力発電所の安全性に不安があるから	16.4%
医療環境に不安があるから	15.1%

※帰町の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答